



「上町台地」名所図会

第6回

大阪府立工芸高校
本館 阿倍野区

2023年3・4月号

号外
2023
4

発行：NPO 法人 まち・すまいづくり
発行人：竹村伍郎
TEL&FAX：06-6779-7222
http://www.machi-sumai.com/
✉ uemachi@machi-sumai.com
〒543-0043
大阪市天王寺区勝山1-11-29

「バウハウス」をご存じでしょうか。ドイツにあった芸術・デザイン 학교で、革新的な教育を施したことで知られます。デザインの世界に大きな影響を与え、それは現在の私たちの暮らしにもつながっています。たとえばIKEAなどのシンプルな家具はまさに「バウハウスの」。しかし、その革新さゆえにナチスドイツの弾圧に遭い、1919年の開校からわずか14年で閉鎖に追い込まれたのです。

日本でそのバウハウス流の教育を実践した学校が2校あります。府立工芸高校はその1つで、バウハウス開校から4年のちの1923年に創立（2022年4月に市立から府立に移管）、翌24年に写真右の本館が完成しました。実は、建物自体もバウハウスの校舍をモデルにした、とされます。鉄筋コンクリート3階建てで、1階と2階の外壁はレンガ積み。北西隅には大きなアーチの玄関があり、その上にはシンボルの時計塔が。「芸術・デザイン教育の拠点を大阪がこの建物から伝わってきます。

2000年に大阪市有形文化財、2008年には経済産業省の近代化産業遺産に指定されました。もちろん、いまも現役の校舍として使用されています。左の写真を見たら、ヨーロッパの街角にいるような気がしませんか？

これからは社会のあらゆる場面で、アートのセンスが必要になるといわれます。いまで以上に、この学び舎から有為な人材が輩出されることを期待しましょう。



建物自体「バウハウス」をモデルに

レンガ色をバックにすると緑も映える

※名所図会(ずえ)とは名所の来歴などを絵も交え紹介したもの。
※[WEBうゑまち](https://note.com/uemachi/)連載の[「上町台地」名所図会]より、みなさまからの反響が大きかったものを、本号外でも掲載いたします。

中原文雄／写真
1948年生まれ。建築工房日想舎 主宰。NPO法人まち・すまいづくり会員。

松本正行／文
1965年生まれ。ライター・編集者。NPO法人まち・すまいづくり会員。



「上町台地」名所図会

第5回

榎木大明神・
楠木大神(中央区)

2023年3・4月号

号外
2023
3

発行：NPO 法人 まち・すまいづくり
発行人：竹村伍郎
TEL&FAX：06-6779-7222
http://www.machi-sumai.com/
✉ uemachi@machi-sumai.com
〒543-0043
大阪市天王寺区勝山1-11-29

古来、日本人は「森羅万象に神が宿る」と考えてきました。とくに樹木に対してその思いが強いようで、各地の神社にはご神木と呼ばれる木が残り、お寺などにある大きな木も大切にされています（木霊信仰）。その一方で、大阪市内では「なぜ、こんなところに」という木にもよく出会います。古い調査ですが、1984年には23か所も道路上に巨木があったそうです（大阪市建設局）。市内中心部の震災を免れた地域に、そういう木がいまも残ります。

熊野街道（お蔵い筋）と江戸時代のメインストリートだった安堂寺通が交差する場所に鎮座する「榎木大明神」（写真右）もそのひとつで、往時は旅人の目印でもありました。樹齢は650年超。楠木正成お手植えとの話も伝わります。ちなみに、延命施術をした樹医によって、エキではなくエジツの木であることがわかっています。

谷町7丁目のクソノキ通りにある「楠木大神」（写真左）はもともとお寺の境内にあり、道路拡張の際、伐採される予定だったのがそのまま残されたそうです。先の榎木大明神もそうですが、こちらも巳（み）さんと呼ばれる蛇がご神体。大阪市内の路傍・路中にある木の多くが蛇にまつわる伝承を伴っています。

他にも上町台地には、玉造稲荷神社そばの「白光大神」、楠木大神から少し南にある「末広大明神」などの巨木が残りまます。何百年も生き抜いた、彼らは、果たしてどんな景色を見てきたのか。想像してみるのが一興でしょう。



この木にちなんで道も楠通りと呼ばれる(楠木大明神)



このあたりは古代の幹線だった(榎木大明神)

※名所図会(ずえ)とは名所の来歴などを絵も交え紹介したもの。
※[WEBうゑまち](https://note.com/uemachi/)連載の[「上町台地」名所図会]より、みなさまからの反響が大きかったものを、本号外でも掲載いたします。

中原文雄／写真
1948年生まれ。建築工房日想舎 主宰。NPO法人まち・すまいづくり会員。

松本正行／文
1965年生まれ。ライター・編集者。NPO法人まち・すまいづくり会員。

らくごハローワーク

相羽秋夫の

第16 職 『厄払い』たった一夜の銭もうけ

年越しや節分に、厄難を追い払う行事に目をつけて、金品を得ようと考えた者がいた。

「御厄、払いまひよ」と唱えて町内をまわり、声のかかった家の前で厄払いの口上を述べて金品をもらう、という限定的職業であった。その口上は「あら目出たや目出たやな。今晚今宵の御祝儀に、目出たきことにて払おうならば、まず一夜明ければ元朝の門（かど）に松竹注連飾（しめかざり）、床に橙（だいだい）鏡餅、蓬萊山（ほうらいさん）雲山（うんざん）に舞い遊ぶ、鶴は千年亀は万年、東方朔（とうほうさく）は八千歳、浦島太郎は三千年、三浦の大助（おののすけ）は三長年（ちやうねん）が集まりて、酒盛りいたす折からに、悪魔外道（あくまがいで）どうい邪悪の者」が飛んで出て、妨げさんとするところ、この厄払いが掻い摘（つま）み、西の海へと思えども、蓬萊山



江戸中期の俳人炭（たん）太抵（たいぎ）の句に「声よりも頼もし気也（げなり）厄払」の句がある。市中にこの風習が広く浸透していた証しだろう。

男性読者が日頃から奥さんより受けている「厄介払い」と「厄払い」は違う。

◇

人並み以上に縁起かつぎの強い商家の旦那。当然のことのように、節分の夜に「厄払い」を招いて口上を述べさせる。その男が去った後、奉公人たちは、縁起の良い言葉を唱えて旦那の機嫌を伺う。番頭は、たまたま雨が降ってきたのを見て、「降るは千年、雨は万年」と言いますから、めでたい」と言っています。旦那を喜ばせる。それを見た旦那の定吉、寝かかっていたが、立ち上がり、布団（ふとん）を振りまわしながら「へえ、夜具払いまひよ」。

の痛さに耐えかね「後の二白は白蒸し（しらむし）。小豆の強い強飯（きんぱん）にしておくれ」。

◇

「尻餅」と題する珍作だ。餅の歴史は古い。紀元前の中国、周（しゅう）の時代にさかのぼる。古くから神への供物とされた。正月の鏡餅に始まり、三月の上巳（じょうし）の節句の菱餅、祝儀の折の鳥の子餅、建前に撒（ま）く小判餅など、儀式喜礼に携（も）いた。ことに餅を撒く行事は現在でも全国の人々の心をとりえる企画になっている。

料理法としては、切餅や丸餅で作る雑煮、黄粉や餡（あん）をまぶす安倍川餅、焼餅に海苔（のり）を巻く磯辺餅、蓬（よもぎ）・栗・胡麻・黒豆・黍（きび）と一緒に揚ぐ餅、保存食のかき餅など用途は広い。餅のことを大阪弁でアモトと言う。一説に、アンモチ（餡餅）↓アンモ↓アモと転化したの。ではなにか、と言われていた。今は死語に近い。

子がなく養子を迎えた後に生まれた実子を、焼き餅子（こ）と称した。蚊柱のことが「餅揚き」とも言う。江戸期に、子供が初誕生日前に歩いた時に揚ぐ餅を「尻餅」と呼んだ。餅の話題でモチキリだが、今回はこの辺で。



NPO法人「まち・すまいづくり」活動報告

お問い合わせはNPO法人「まち・すまいづくり」まで
TEL: 06-6779-7222

住まいと暮らしの

総合無料相談会

3月11日・4月8日(土)

10時～12時

大事なことなのだけど、なかなか日常生活では相談できない住まいと暮らしの「困った」はありませんか？「住まいと暮らしの総合無料相談会」は弁護士、司法書士、一級建築士、税理士、宅地建物取引士の当法人会員が専門知識を生かしてご相談に応じます。電話またはHPよりお申し込みください（電話受付は平日10～15時）。

花祭り

夕霧太夫行列

4月2日(日)11時～

大坂・新町にいた日本三名妓のひとつ、夕霧太夫のお墓が浄國寺にある縁で、毎年、花祭りに併せて催されています。11時に金台寺より行列スタート、12時に浄國寺にて灌頂会供養法要を実施します。当NPO法人も実行委員に加わるイベントです。

第40回うゑまち寄席

3月11日(土)14時開演

桂佐ん吉、桂ちようばによる、上方落語発祥の地・上町台地にふさわしい、古典を中心とした落語会です。電子チケット販売サイト「TIGET」(チケット)からも予約可能です。なお、第41回うゑまち寄席は5月に開催予定です。日程など詳細は、HPでご確認ください。

場所…心寺南会所(天王寺区連坂2、7)
入場料…2000円

大人のための

文章教室

ライター・編集者 松本正行

「という」の多くは必要ありません

会議の時間が変更になったという
ことを私は知りませんでした。

「文は簡潔に」——それを意識するだけで文章力は格段に高まります。無意識で使いがちな「こと」や「とき」、あるいは言葉の重複などを避けるだけで、スッキリかつ締まった文章になり、読みやすくなります。

例文にある「という」も同様です。削ることで冗長さが解消されました。

先日、ある人の文章をチェックしていたら、2000字程度の分量で、7回も「という」が出てきて驚きました。実際、あまり意識せずに使ってしまう人は多いようです。自分の文に「という」があれば、試しに削ってみましょう。たいていは、なくとも意味が通じます。

なお、先に修正した文章はさらに短くすることが可能です。「会議の時間の変更を私は知りませんでした。例文は29文字（句点含む）、修正文は26文字、最後は20文字で3分の2まで圧縮できました。と同時に、スマートさ（スリム&賢く）が増したこともわかってもらえるでしょう。

上町台地上にある高津高校出身。新聞社・出版社勤務を経て、現在、Webや雑誌等で活躍中。NPO法人「まち・すまいづくり」会員。